

ひとしずくの森

夏の号

発行・編集
山形県源流の森
飯豊町須郷 669 - 3

ひさびさの大賑わい！

第120回森林の学校を開催

一、夏と言えば

子供達が元気に外へ飛び出す夏と言えば、虫取りに魚つりが昭和の定番。自然の不思議さや命の尊さに触れる絶好の機会です。そんな体験を残したいと第二百十回は虫を中心に企画しました。昨年は梅雨明けの酷暑の中だったので、今年は三週間繰り上げたのです。が・・・心配をよそに四十人の予約枠は見る見る埋まっていき、締め切り後には電話の申込みを断るはめになりました。

二、どうしよう

お客様は満員になったものの、肝心の虫達は未だ姿が見えません。時期が少し早すぎたのか？そうしている間に梅雨前線が山形県の真上に居座ったまま連日の雨また雨。当日も雨マークが取れません。おまけにクマが出て野鳥観察小屋と蜜蜂の巣箱が破壊されました。「虫捕りのバナナトラップや参加者が襲われたらどうしよう。」眠れない所長に助けの神が袋を抱えてやって来たのでした。

三、意識高い子供達にフラフラ

七月九日当日の参加者は三九人、このうち低学年の男子が半分を占め、親子も六組ありました。虫かごを肩に、手

には網を持ち、全員「一匹も逃さない」覚悟です。気温は二六度ながら湿度は八五パーセントと少し動くと汗が噴き出る状況でした。

最初、山形県森林インストラクター会の佐藤会長から虫についてのお話を聞いた後、虫を見付けやすくする訓練も兼ねて「森の色探し」を行いました。参加者は森にあるいろんな色や形に気付いてくれたようです。

午後からはお待ちかね「昆虫ビンゴ」と虫取りです。なんとか天気ももってくれそうです。事前に仕掛けておいたトラップを廻りながら、先生方から虫のいる場所や捕り方を教わりました。中には専門的な知識を持った子もいて、疲れ知らずの子供達に大人達は汗だくで付いていきました。そして木の洞に手をつ突っ込んだ子がクワガタをゲット！。それを見た子達はますますヒートアップ。時間一杯虫を探しました。やはり虫の魅力は絶大です。閉校式では虫を捕れた子も、捕れな

など多くの水の生き物採取・観察することができました。また、お昼には中津川の雪で雪合戦や的当てで涼みました。

二日間とも熱中症警戒アラートが発表される中、二十分ごとのこまめな休憩・給水をとるなど、熱中症対策をとりながらの活動となりました。参加者の皆さん、インタープリターの皆さん、大変お疲れさまでした。

（伊藤）



白川での川の生き物探し

加茂水族館へ「リポ」8/27

昨年締結した覚書に基づき、鶴岡市加茂水族館と山形県源流の森は協力して山と海を繋ぐ活動に取り組むこととなりました。

初回の今回は加茂水族館にお邪魔して当館の活動を紹介したり、陶芸、クラフトの出前講座、アルプホルンの演奏などを行いました。



葉っぱの魚クラフト



アルプホルンの熱演

また、水族館のボランティアとも交流しました。次年度以降も相互交流や情報発信、県民への働きかけを広げていきます。（イッシー）

所長イッシーのネホダレ

自然の不思議に気付く力、棒一本、石ころ一個でも遊びを作り出せる創造力が子供の本分。そこには完璧や詰めめではない間やゆとりがあるからこそ自分なりの世界を描く楽しさがあるはず。しかし、近年の映像作品や音楽は一部の隙も無い構成で視聴者の興味を釘付けにします。それに慣らされたら最後、創造力は要りません。これに息苦しさを感

じるのは昭和のおじさんだけでしょうか。虫取りに夢中になるのは小学校低学年。うちの近所の高学年はみんな集まってはゲームとカードバトル。隙間なく出来上がってしまった世界の虜です。どうなる日本の創造力！

△やチャットGPTが身近に導入され始めています。人類史学者ハラリー氏は著書「ホモ・デウス」の中で、遠からず専門職・技術職は不要になると言っています。今後人類に必要とされる能力は「何故？」と疑問に思う心と、何も無い所から物事を作り出す創造力ではないでしょうか。あなたも今すぐ網を持って森に出掛けてみては。

「ネホダレ」は置賜語で寝言の意味

夏休み源流塾2023

残念ながら全員釣ることはできませんでしたが、一方、一人でフナを五匹も釣り上げる名人もいました。午後は山形県内水面水産研究所から荒木副所長さんを講師にお招きし、川の生き物の種類や役割、採集の仕方などについて教えていただきました。研修室でクイズ形式の座学を行ったあとは置賜白川へ移動。安全の為ライフジャケットを装着しての活動です。カジカやカワゲラ